

●「失われた10年」

▽満州事変(昭和6年9月)～太平洋戦争開戦(16年12月)

「破滅的戦争」に走り出した10年だった

▽防ぐチャンスはいくらでもあった

▽まず二・二六事件(昭和11年2月26日)

陸軍に軍紀粛正を徹底させ

政治が力を取り戻す絶好のチャンスだった

▽広田弘毅首相は陸軍のロボット内閣に

「軍部大臣現役武官制」を23年ぶりに復活させ

軍部に「内閣生殺与奪の権」

「陸軍を持つ国」ではなく「陸軍の持つ国」に

▽次が盧溝橋発砲(昭和12年7月7日)からの支那事変

近衛文麿首相が現地解決をしていたら

太平洋戦争はなかったろう

石原莞爾(陸軍少将)は泥沼化を指摘

「広大な国土、膨大な人口を持つ中国と、ひとたび抗争に陥れば、果てしない荒野に無限の進撃命令を出すようなものだ」

▽陸軍の大勢は楽観的な一撃論

▽日本の中国蔑視 大国意識が

話し合い解決の足を引っ張り 泥沼化

●最後のチャンスが、第2次世界大戦勃発(昭和14年9月)

▽「独ソ不可侵条約」の激震に襲われていた

独ソ不可侵条約(昭和14年8月23日締結)

ドイツは昭和14年1月、日本に「従来の日独防共協定(11年11月調印)を強化し日独伊三国同盟を結ぼう」と申し入れてきた。陸軍は「即時、無留保締結」を主張したが、海軍、外務省は、ソ連だけでなく英仏も対象に入れ即時参戦を義務付けた軍事同盟に、強硬に反対した。

板垣征四郎陸相が平沼騏一郎首相に、大臣辞職の脅しで締結に躍起になっているとき独ソ不可侵条約のニュース。「相互の同意なくしてソ連との間に一切の政治協定を結ばない」(板垣)に、違反する重大な裏切り行為だった。

広田 弘毅(ひろた・こうき)

明治11(1878)～昭和23(1948)福岡県生まれ。外務省欧米局長、駐ソ大使を経て昭和8年斎藤内閣外相。岡田内閣に留任し11年二・二六事件後に首相。軍部大臣現役武官制を復活、日独防共協定調印。12年第1次近衛内閣外相。重臣に列せられ、東京裁判で文官中ただ一人死刑に

近衛 文麿(このゑ・ふみまろ)

明治24(1891)～昭和20(1945)東京生まれ。五摂家筆頭・関白家の出。昭和6年貴族院副議長。8年議長に進み、12年第1次内閣を組織。支那事変勃発で13年「国民政府対手ニセス」と声明、解決の道を塞ぐ。15年第2次内閣で大政翼賛会を結成し日独伊三国同盟締結。16年第3次内閣で日米交渉打開に努力したが10月総辞職。戦犯の出頭命令を受け、服毒自殺

石原 莞爾(いしはら・かんじ)

明治22(1889)～昭和24(1949)山形県生まれ。陸軍中将。昭和3年関東軍参謀。満州事変を起こし、満州国建国を推進。参謀本部作戦課長を経て12年作戦部長に就任。支那事変不拡大を主張したが容れられず、関東軍参謀副長に転出。東条と対立し、16年京都師団長で予備役

板垣 征四郎(いちはら・せいしろう)

明治18(1885)～昭和23(1948)岩手県生まれ。陸軍大将。昭和4年関東軍高級参謀となり、石原と満州事変を起こし「知謀の石原、実行の板垣」と謳われた。第5師団長を経て13年6月近衛内閣陸相。平沼内閣にも留任し14年支那派遣軍総参謀長。朝鮮軍司令官、第7方面軍司令官。東京裁判でA級戦犯として刑死

▽平沼内閣は 昭和14年8月28日

「欧州の天地は複雑怪奇」と声明し 総辞職

●ノモンハン(露寇)では、ソ連軍に大敗していた時

▽政変説が 取り沙汰されると

陸軍は 有末精三(騷賊)を先頭に

陸軍の希望する後継内閣作りに 動いた

▽板垣(騷)は 26日 近衛を訪ね

「東亜新秩序建設のため、英ソが不倶戴天の敵である決意に変わりなく、当面の難局を克服する措置として、日独間の親善関係は従来通りとする。新内閣はこうした方針を受け入れる人物によって組織されるべきだ」

▽近衛が「陸軍意中の人物」を 尋ねると

「林銑十郎か阿部信行」

林は首相時代「何もせんじゅうろう内閣」

▽阿部は 宇垣一成(騷)の下で次官

閣僚経験もなく 世間的には 無名の人

「阿部内閣」と聞いて「いよいよ安部磯雄(壯太 親類)が出たか」早とちりした笑い話も

●昭和天皇は、「ひとつ阿部にやらせてみよう」

▽天皇は 適当な陸軍大臣を出して

陸軍の肅正をしなければ 内政 外交もダメに

「阿部ならば、陸軍も協力するだろうし、

陸軍のこともよく分かっているから」

— 天皇は30日夜、阿部に異例の指示 —

第一に、外交方針は英米と協調する方針を執るべし。第二に、陸軍大臣は自分が指名する。畑俊六か梅津美治郎より選ぶべし。第三に、治安の保持は最も重大なれば、内務大臣、司法大臣の人選は慎重にすべし。

▽歴代首相への 3カ条の注意(國體 憲法 親政)

英米協調路線を明示し 陸相人事まで決める

— 陸相人事 —

三長官会議(畑、騷、親類)で決定が慣例。気に入らない内閣には、「陸軍として推薦すべき人物がない」と、内閣を倒すことも出来た。

平沼 騷一郎(ひらぬま・きいちろう)

慶応3(1867)～昭和27(1952) 岡山県生まれ。検事総長、大審院長、法相を歴任。右翼結社「国本社」を主宰し枢密院副議長の昭和5年、ロンドン軍縮条約に強硬に反対。11年枢密院議長。14年1月首相。A級戦犯で終身刑。仮出所中に病死

有末 精三(ありすえ・せいぞう)

明治28(1895)～平成4(1992) 北海道生まれ。陸軍中将。イタリア大使館付武官を経て昭和14年軍務課長。参謀本部第2部長など歴任。戦後日本郷友連盟会長

林 銑十郎(はやし・せんじゅうろう)

明治9(1876)～昭和18(1943) 石川県生まれ。陸軍大将。昭和5年朝鮮軍司令官。満州事変で越境問題を起こす。9年斎藤内閣陸相。岡田内閣に留任、真崎教育總監を更迭し二・二六事件の一因に。12年2月首相に就任、4ヵ月の短命内閣に

阿部 信行(あべ・のぶゆき)

明治8(1875)～昭和28(1953) 石川県生まれ。陸軍大将。陸軍省軍務局長を経て昭和4年宇垣陸相の下で次官。台湾軍司令官など歴任し12年予備役。14年8月首相。物価政策に行き詰まり15年1月総辞職。中国特命全権大使、朝鮮総督歴任。戦犯に指定されたが不起訴になった

宇垣 一成(うがき・かずひ)

明治1(1868)～昭和31(1956) 岡山県生まれ。陸軍大将。大正13年清浦内閣陸相となり加藤(騷)、若槻、浜口内閣に留任し4個師団廃止の「宇垣軍縮」を実施。昭和12年1月組閣の大命を受けたが、陸軍の反対で断念。13年近衛内閣外相。戦後28年に参院選全国区で最高点当選

▽天皇は「畑、梅津以外は、たとえ三長官の議決があっても、許す意思はない」

▽畑は 5月に 侍従武官長になったばかり
「今度の武官長はいいよ」と

政治色のない 誠実な人柄を 買っていた

▽天皇は しっかりした陸相を 出すことにより
政治 外交の建て直しを 進めようと

元老西園寺公望の言葉

首相の印綬を帯びるほどの者は、三斗の酢を鼻で吸うほどの苦難を舐めた者でなければ、その資格はない — 有力政治が次々と暗殺され、人物が払底していることを嘆いていたが、阿部は突然の大命に、お叱りを受けた感じで、顔中真っ赤なコブが吹き出したようだった。

▽三長官会議は 内定の2人が 辞退したことにして
畑を推薦 阿部内閣は 8月30日夜 成立した

●ドイツ軍は9月1日、ポーランドに進撃を開始

▽イギリス フランスが 3日

ドイツに宣戦布告 第2次大戦が始まった

三国同盟を結んでいたら 日本も参戦に

▽天皇は 辞職の挨拶に参内した 米内光政(輔)に
「有難う。海軍がよくやってくれたお陰で
日本の国は救われた」

昭和天皇の歴史判断

那須御用邸の記者会見(昭和54年)で、「生涯最も楽しかった経験」として、大正10年皇太子時代の「イギリス訪問」。大正天皇が病弱のため、原敬首相は「早晩、皇太子の摂政就任の措置をとらなければならないが、それに備えて、外国で内政、外交の見聞を広めて頂こう」

帝王学の総仕上げとして、海軍軍艦によるヨーロッパ巡遊の旅(昭和10年3月3日~9月2日)が実現した。イギリスでジョージ五世から、立憲君主制の在り方を聞かれ、君主としての身の処し方、反省の機会を持つようになり、「日本は英米と協調関係にある限り大きな外交上の失敗はない。両国を敵に回したら必ず躓く」の考えに。

安部 磯雄(あべ・いそ)

慶応1(1865)~昭和24(1949) 福岡県生まれ。同志社、早大教授を経て、昭和3年衆院議員。7年社会大衆党を結成し委員長。15年斎藤除名問題で離党。明治35年~昭和11年早大野球部長。「学生野球の父」と言われ、24年学生野球協会会長

畑 俊六(はた・しゅんろく)

明治12(1879)~昭和37(1962) 福島県生まれ。陸軍大将・元帥。台湾軍司令官、教育総監を経て昭和13年中支派遣軍司令官。14年5月侍従武官長。8月阿部内閣陸相。米内内閣に留任したが、単独辞職し内閣を倒す。16年支那派遣軍総司令官。20年本土決戦のための第2総軍司令官。A級戦犯で終身禁固刑。29年假釈放

梅津 美治郎(うめづ・よしじろう)

明治15(1882)~昭和24(1949) 大分県生まれ。陸軍大将。昭和11年陸軍次官となり、関東軍司令官など歴任。19年参謀総長。A級戦犯で終身禁固刑、拘置中病死

西園寺 公望(さいおんじ・きんもち)

嘉永2(1849)~昭和15(1940) 京都生まれ。九清華家の出。文相、枢密院議長。明治36年政友会総裁。39年首相。44年再度首相。陸軍の2個師団増設要求を拒否し総辞職。晩年は最後の元老として、国際協調に努め、後継首相を奏請した

米内 光政(よない・みつまさ)

明治13(1880)~昭和23(1948) 岩手県生まれ。海軍大将。連合艦隊長官を経て昭和12年林内閣海相。平沼内閣に留任。15年1月首相に就任したが、日独伊三国同盟に反対し畑陸相辞職で7月総辞職。19年現役に復帰し、小磯、鈴木内閣海相として終戦和平に尽力した

●阿部内閣は9月4日、「欧州戦争不介入」を声明

帝国政府声明(昭和14年9月4日)

「今次欧州戦争勃発したるに際し帝国は之に介入せず、専ら支那事変の解決に邁進せんとす」

▽ナチス・ドイツが 外交上「信頼できない国」

厄介な 三国同盟問題が 雲散霧消

▽独伊枢軸寄り路線から 英米協調に 外交転換

支那事変解決の 絶好のチャンスだった

▽阿部を推した陸軍は 親独反英路線

阿部は 相反する方針の間を 複雑に揺れ動く

●アメリカは7月26日、日米通商航海条約廃棄を通告

▽半年の 猶予期間を経て

昭和15年1月に 廃棄されたら？

日本経済は「米英依存経済」そのもの

中でも致命的なのは石油。日本の原油生産量は年額40万ト、国内需要500万トの1割にも満たない。石油がなければ、軍艦を動かさないし飛行機も飛ばせない。

米国から石油の90%、銅の93%、鉄鋼の50%、綿花の40%を輸入、支払い外貨を稼ぐために、米国に生糸の82%、缶詰の13%、絹織物の15%を輸出している。しかも戦争に欠かせぬ資源、ゴム、亜鉛、錫、ボーキサイト(アルミニウム原料)は米英ブロックから持ってくるしかない。

▽日本の経済的死活 一国の生死が

経済的に 米国大統領に 握られている

▽米国が 輸出の元栓を 締めれば

日本は 勝つか負けるかを 通り越して

早魃にあった 稲のように 立ち枯れてしまう

▽対米戦争は 絶対に 避けるべきだったし

これが 国策になってなければ いけなかった

●山本五十六は、「石油なくして海軍なし」

▽海軍は 危機感を持ち 大正7年から

徳山(山口)に 非常用タンク 石油備蓄を始めた

▽艦隊供給の油は 8ノット速力(速15%) 20昼夜分

特別大演習(4年ごと)に限り 5昼夜分増配

原 敬(はら・たかし)

安政3(1856)～大正10(1921) 岩手県生まれ。外務次官、逓信相、内相を歴任。大正2年政友会総裁。7年首相に就任、初の本格的政党内閣を組織し「平民宰相」と世論の支持を受けたが、東京駅で暗殺

日米通商航海条約(昭和44年2月締結)

国家間経済関係を安定させるため、通商・航海・関税・為替、さらにこれに付随する入国・居住・領事交換などを定めた条約。

日本はこの時、初めて関税自主権を回復し、不平等条約から解放された。

加藤友三郎の見識

ワシントン会議(大正11年)全権を務めた時「金がなければ戦争は出来ない」「日本がどこかと戦争になれば、どこからか金を借りなければならない。日本に金を貸してくれそうな国となると、アメリカ以外には見当らない。と言うことは、結論として、日米戦争は不可能ということになる」

加藤 友三郎(かとう・ともさぶろう)

文久1(1861)～大正12(1923) 広島県生まれ。海軍大将。明治38年連合艦隊参謀長となり、日本海海戦を勝利に導く。大正4年海相。ワシントン会議全権として海軍軍縮条約締結。11年首相に就任、軍縮を実施したが、在任中病死。死後元帥

山本 五十六(やまもと・いそく)

明治17(1884)～昭和18(1942) 新潟県生まれ。海軍大将。米国駐在武官、航空本部長を経て昭和11年海軍次官。14年8月連合艦隊長官となり開戦劈頭のハワイ真珠湾攻撃を立案、実行した。前線基地視察中にソロモン諸島上空で米軍機に撃墜され戦死。死後元帥、国葬

▽海軍は「ただひたすら貯める」方針で

昭和16年夏の備蓄量は 700万ト

▽海軍としては 1年半 甘く見て 2年はしのげる

▽山本が 近衛に「初めの半年か一年の間は随分暴れてご覧に入れる。しかしながら、二年、三年となれば全く確信は持てぬ」この備蓄量が念頭に

敗戦後、海軍関係者の間で

「あんなに貯めたからこそ、戦争になったのだ。戦争責任者は油屋(製油者)の親爺だ」

●陸海軍指導部も、「米英依存」の弱点は承知していた

▽支那事変が 始まってからも

アメリカだけは 刺激しないよう 気を遣った

▽支那事変で 宣戦布告をしなかったのも

米国の中立法(交戦国と露・露品の輸出禁止)が 発動され

軍需物資入手が 難しくなるのを 避けるため

▽海軍機が 揚子江で 米砲艦パネー号を

誤爆により 撃沈した時(昭和12年12月12日)も

山本次官は グルー大使に 率直に謝罪

賠償金221万ドル(670万円)で 解決(13年4月22日)

●アメリカも2年間は、対日経済制裁はしなかった

▽「九カ国条約違反」と 原則的な抗議

ルーズベルト大統領も シカゴで(12年10月5日)

ドイツ 日本を 伝染病保菌者になぞらえ

「宣戦布告も正当な理由もなく、一般市民が爆撃によって殺戮されている。彼らはすべからず、平和を愛する国民の共同行動によって隔離されるべきだ」「侵略者は隔離せよ」

▽しかし 蒋介石政権に 4千万ドルの資金援助だけ

日本に対する経済措置は 控えていた

▽斎藤博駐米大使が 病死すると(14年2月)

巡洋艦アストリアで 遺体を 日本に送り届けた

平沼首相も 一時帰国の グルー大使に

大統領宛てメッセージを託し 関係改善努力

●それが突然、アメリカを敵対的な関係にしたのは…

▽昭和14年6月14日 日本陸軍による

天津のイギリス租界 封鎖事件だった

…… どれほど石油が欲しかったか ……

山本が次官時代、大西滝治郎(姓)が「水から油がとれる」話を持ち込んで来た。透徹した判断を下すことで定評のあった山本までが乗り気になって、海軍共済組合の一室で2昼夜ぶっ通しの実験が行なわれたが、油は1滴も出なかった。満州・黒竜江省に大慶油田が眠っていて年額2千万ト(昭和35年報載)も産出すると知ったら…。

大西 滝治郎(おほし・たきじろう)

明治24(1891)～昭和20(1945)兵庫県生まれ。海軍中將。第11航空艦隊参謀長など航空畑を歩み、昭和19年第1航空艦隊長官となり、レイテ海戦に際し「神風特別攻撃隊」による特攻攻撃を採用。20年軍令部次長。敗戦の翌日自決した

グルー(Joseph Clark Grew)

1880～1965 米国外交官。トルコ大使を経て昭和7年駐日大使。開戦で帰国後国務省極東局長、国務次官、国務長官代理を歴任、天皇制存続に尽力した

中国に関する九カ国条約

(昭和11年2月6日締結) 日本はじめ、ワシントン会議参加の英米仏など9カ国は、中国の「主権・独立およびその領土的行政的保全を保障すること」を約束。

ルーズベルト(Franklin D. Roosevelt)

1882～1945 海軍次官などを経て昭和8年第32代米国大統領。ニュー・ディール政策を推進し大恐慌に対処。第2次大戦を指導、異例の4選を果たしたが急死

蔣 介石(しょう・かいせき)

1887～1975 明治40年日本に留学し、陸軍が中国人留学生のために作った振武学校に学ぶ。大正15年国民革命軍総司

天津英租界封鎖事件

4月9日夜、イギリス租界の映画館で日本側任命の中国人税関長が暗殺された。4人の抗日分子が容疑者として逮捕されたが、英国側は、日本の引き渡し要求に物的証拠が見つかってないとして人道的理由で拒否。天津駐屯軍は6月14日、租界出入口7カ所に鉄条網を張って封鎖し、検問所で男女を裸体にして身体検査した。

英首相チェンバレンは議会で「忍びがたい侮辱だ」と非難演説。心配された天皇は閑院宮参謀総長に天津駐屯軍の行動を抑制するよう命じられ、身体検査は中止された。日英交渉も舞台を東京に移し、有田八郎外相・クレーギー英大使の間で行なわれることになった。

●7月に入ると、全国で反英運動が激化した

▽陸軍が 右翼を煽動 警察も黙認「官製運動」

岩畔豪雄大佐(驍騎)が 直接 指揮して

「極東の敵英国を倒せ！」 立て看板やピラ

▽市民大会 378カ所85万人 街頭デモに40万人

▽陸軍の狙いは 日英会談(15日)に 圧力をかけ

三国同盟を 世論の力で 推進しようとした

蒋介石政権の法幣(法幣) 追放の魂胆も

法幣問題

銀本位制の中国では、多くの銀行から銀貨が無統一、乱雑に発行され、昭和10年には米国の銀買上げ政策で大量の銀が流出、金融逼迫、旱魃、水害が重なり恐慌状態に。国民政府の要請で派遣された英財政顧問リース・ロスは、11月3日、銀本位制を廃止し管理通貨制度を実施した。1千万ポンドの資金を提供、政府系3銀行発行の紙幣を法幣としてポンドとリンクさせたから、金融市場は平静を取り戻し、英国が中国経済の主導権を握ることになった。

リース・ロスは英皇帝の天皇宛親書を持って来日し、日英共同借款を提案したが、華北分離工作を進めていた陸軍は、「紙幣統一は中国統一につながる」と反対、広田外相も拒否した。

令となり、中国統一軍事行動を開始。昭和3年国民政府(蔣)主席に。国共合作を受け入れ対日戦を指導した。戦後、国共内戦を起こし、敗れて台湾に渡る

齋藤 博(さいとう・ひろし)

明治19(1886)～昭和14(1939)新潟県生まれ。オランダ公使を経て昭和9年駐米大使となり、日米関係調整に努力した

チェンバレン(Arthur Chamberlain)

1869～1940 英国政治家。蔵相を経て昭和12年首相。ミュンヘン会談で対独宥和策をとったが、大戦となり15年辞職

閑院宮 戴仁親王(かんいんののみや・ことひと)

慶応1(1876)～昭和31(1956) 伏見宮邦家親王の第16皇子。陸軍大将・元帥。第1師団長、近衛師団長を経て昭和6年参謀総長となり、15年まで在任した

有田 八郎(ありた・はちろう)

明治17(1884)～昭和40(1965)新潟県生まれ。外務次官、ベルギー、中国大使。昭和11年広田内閣外相となり日独防共協定締結。13年近衛内閣外相。平沼内閣にも留任し、三国同盟に反対。15年米内内閣でも外相。28年衆院議員。東京都知事選(30年、34年)に社会党から出馬し落選

クレーギー(Robert Craigie)

1883～1959 英国外交官。昭和12年駐日大使となり、開戦で帰国した

岩畔 豪雄(いわら・たけお)

明治30(1897)～昭和45(1970)広島県生まれ。陸軍少将。昭和14年陸軍省軍事課長となり南方進出を主張。16年3月渡米し、野村駐米大使を補佐して日米交渉。第28軍参謀長。戦後は京都産業大教授

- ▽日本軍の現地支払いは 朝鮮銀行券で
ポンド ドルとの転換性がなく 租界取引は法幣
軍の必需品も 法幣なくしては 買えない
- ▽陸軍は 中華民国臨時政府(北京)に
連合銀行を設立させ 連銀券による通貨支配を
- ▽法幣優位は変わらず 連銀券流通は
日本軍占領地と鉄道沿線 相場も5割近く下落
- ▽天津駐屯軍は イギリスに 法幣流通禁止
租界内の 4,500万元の現銀引き渡しを 迫った

●第2次大戦直前、イギリスは譲歩した

- ▽犯人の身柄引き渡し 援蒋ルート(北支)一時閉鎖
7月22日 原則的覚書が 調印された
「イギリス政府は、中国における日本軍の治安
維持、利敵行為排除のための行動を妨害する
意思を持たない」 続いて 現地で具体的交渉
- ▽最後まで 同意しなかったのが 法幣流通禁止
- ▽イギリスの対日軟化を見て アメリカは

「通商条約廃棄」の切札で 日英両国を牽制に
背景に米国民の対日世論悪化

ギャラップの調査では、日本商品ボイコットに66%が賛成、兵器などの対日禁輸措置は72%が支持していた。ルーズベルトは、極東での戦争に巻き込まれる恐れがなく、しかも条約失効までの半年間は、日本に不安を与えつつ、その出方次第で新条約を締結するか破棄するか、一方的フリーハンドを持ち得る「通商条約廃棄」の通告を選択したのだ。

●阿部内閣で注目されたのは、誰が外相になるか

- ▽陸軍は 独伊との親善維持の 立場から
枢軸派の白鳥敏夫(駐米)を 画策したが
米国通の 野村吉三郎(駐米)だった
- ▽駐米武官時代 海軍次官のルーズベルトも祝電

……「派出婦内閣」「廃品回収内閣」……
近衛系、平沼系閣僚が多かったことから、「派出婦内閣」と世評は芳しくなかった。岩淵辰雄(駐米)も「阿部内閣がいつまでの運命であるか、その時になってみないとわからないが、廃

天皇の異例の指示には

英米協調は、対米関係の修復に日本経済の死活がかかっていたからだ。陸相人事を決めたのも板垣に強い不満。租界封鎖問題を尋ねた時、板垣は「陸軍が英国租界の持っている4,500万元の現銀引き渡しを要求するのは結局、為替相場を維持するためです」「それだけでいいのか」に、「それではとてもダメなんでございます」「お前ぐらい頭の悪い者はない」と叱った。最終的解決にならないのに、徒に軍事的威圧を加える陸軍に我慢がならなかったのだ。内相、法相の人選注意も、反英活動を見て見ぬふりして、取り締まろうとしない木戸幸一(内相)に不満だったから、と言われる。

木戸 幸一(きとこういち)

明治22(1889)～昭和52(1977)東京生まれ。昭和5年内大臣秘書官長。文相、厚相を経て平沼内閣内相。15年内大臣就任。東条を首相に奏請したが戦争末期は反東条となり倒閣。終戦和平に尽力。A級戦犯で終身禁固刑。30年仮出所

白鳥 敏夫(しらとりとしお)

明治20(1887)～昭和24(1949)千葉県生まれ。昭和5年外務省情報部長となり対外強硬外交を推進。13年駐伊大使。三国同盟締結を推進し、17年衆院議員。A級戦犯で終身禁固刑。拘置中に病死

野村 吉三郎(のむらきちさぶろう)

明治10(1877)～昭和39(1964)和歌山県生まれ。海軍大将。大正3年駐米武官。10年ワシントン会議随員。昭和7年第3艦隊長官。天長節祝賀式(上海)で、朝鮮人に爆弾を投げられ、右眼失明。12年学習院長。14年阿部内閣外相。16年駐米大使となり、日米交渉に当たる。29年参院議員

品回収内閣と屑物扱いしてゐる、京童の感じは、精々三ヵ月だらう」

野村だけは、新聞は「隻眼の今西郷」の見出しで「海軍切つての米国通は適任だ」と好意的。

●野村・グルー会談(11月4日)も難航した

▽日米交渉と言っても 所詮は 中国問題

支那事変を解決しなければ どうにもならない

▽米の中国権益で 文書で 解決申し入れが 空襲被害を筆頭に 230件

現地解決委任を入れると 600件以上に

▽日本側は 米国権益の友好的取り扱い

米国民保護 通商旅行の制限緩和で

何とか新協定 せめて 暫定協定を結びたい

▽野村は 陸海軍と折衝し 揚子江のうち

南京から下流開放の了解を 取り付けたが

米国側は「権益の実質的保障が得られない」

▽必死の努力を 足元から すくったのが

またも 陸軍の軍事行動 南寧作戦だった

▽11月24日 南寧を占領したが アメリカを刺激した 援蔣ルートを 叩かれただけでなく

仏印が目と鼻の先 仏印も狙うのではないか

▽統一した国策のなさ「陸軍の持つ国」の悲しさ

●グルー大使は、阿部内閣の努力は認めていた

▽12月に入ると ハル(國務館)に

「暫定協定を結ぶべきだ」と 上申した

— グルーのハル宛て電報 —

単純な事実、われわれが相手にしているのは統一された日本全体ではなく、頑強な軍部に対して徐々にしか成功を収めていないが、勇敢に戦っている日本政府であるということである。日本政府は、この闘いに支持を必要としている。

▽ハルは 12月22日 交渉打ち切りを指示

「世界の東半分を支配する大日本建設に興味を持つことにおいて、日本政府が軍部に劣っているとは信じ難い」

岩淵 辰雄(いづみ・たつお)

明治25(1892)～昭和50(1975)宮城県生まれ。昭和3年から読売、国民、東京日日記者として活躍し、戦時中は中央公論、改造に政治評論を執筆。戦後読売主筆

— 貿易省設置問題で揺さ振られた —

陸軍が貿易統制強化を狙って、外務省通商局と商工省貿易局で貿易省を作ろうとした。興亜院を作られて、中国外交を奪われていたから、「外交一元化」を要求し、局長ら高等官百数十人が一斉に辞表提出の騒ぎに。

閣議決定撤回で落ち着いたが、野村は「艦隊と違って、シビリアンは統制しにくいものだ」とぼやいたという。

— 南寧作戦 —

昭和13年10月漢口、広東を占領した後、大規模作戦は限界に達していた。広大な中国大陸は、33個師団、全兵力の7割を投入しても、各地に分散駐屯する形になり、都市、鉄道維持で精一杯。討伐作戦、治安維持に重点を置く中で目をつけたのが仏印を通る援蔣ルートの遮断だった。

米国の援助物資は、ほとんどがトンキン湾のハイフォンに陸揚げされた後、雲南鉄道(ハイン)か、南寧に出る自動車ルートで重慶へ送られておりまず南寧ルートを叩こうとした。

ハル(Cordell Hull)

1871～1955 ルーズベルト大統領時代、昭和8年から19年にかけて米国务長官。16年11月、日米交渉で「ハル・ノート」を提示、日本側は最後通牒と見做して、開戦に踏み切った。国連創設に尽力し、ノーベル平和賞を受賞した

●阿部内閣が4ヵ月半で倒れたのは、物価政策の失敗

▽支那事変以来 物価が高騰 第2次大戦が拍車
昭和14年10月18日「九・一八停止令」

……そこへ米不足が表面化 ……………

平沼内閣は総辞職直前、最高標準米価を石当たり市価より1円10銭安い38円に公定し、端境期の思惑的な出し渋り対策とした。

ところが、早場新米の出回り期になっても産地の売り惜しみ、商人の買取競争は収まらず、しかも朝鮮の干害による収穫の減少が予想され、大都市の米屋はストックなし。三河島警察署管内で1日の必要量700俵に対し米屋の手持ちは200俵程度。米屋に石を投げる騒ぎも。

▽政府は 消費地への出回り 促進のため

11月6日 最高公定価格を 5円引き上げ43円に

▽政府自ら 禁令を破ったことが

農民に 米価上昇の期待感 一層の出回り渋滞に

▽12月1日には「白米禁止令」

米は 7分づき以下に制限 うどん パンを奨励

▽「足りん足りんがこの頃の挨拶」

木炭 ガソリン 医薬品と 物不足が深刻化

上からの押し付けが 反発を強めた

▽陸相官邸の塀には「天皇バカ」の落書

「阿部の野郎をぶち殺せ」とか

「米はなし、炭はなし、国民はこの寒さに、食はずに死ぬよりほかにない」の 投書も

●政党も、国民の不满を見て「倒閣」の火の手

▽衆議院各派は 12月26日(臘試日)

有志会合を開いて 内閣不信任決議

▽政党側は 昭和15年1月7日

不信任署名 276人の氏名を公表 退陣を迫った

▽陸軍は 国民の 政府に対する不満が

陸軍に 跳ね返ってくるのを 恐れた

▽畑陸相が8日 阿部に 辞職を勧告

軍事参議官会議も10日「政局安定の要望」

▽阿部内閣は 陸軍に引導を渡され 14日総辞職

阿部は 原田熊雄(元西園寺の輔)に

「陸軍国家」の異常を 訴えた

米国は「ヨーロッパの兵器廠」に

第2次大戦に中立を宣言(9月5日)したが、米国政府の立場は、戦争に巻き込まれたくないが、英仏の勝利を求める点では明確だった。それには、中立法が邪魔だった。議会は11月4日大激論の末、中立法修正を可決、交戦国の英仏に「自国の船で輸送」の条件付で武器・軍需品輸出の道を開いた。

「九・一八停止令」

政府は強力な物価統制に迫られ、国家総動員法を発動して、9月18日現在の価格から引き上げてはならないとした。生鮮野菜、鮮魚介類、土地、建物や有価証券以外は、商品価格、給料や家賃、地代、運送費など、物価・賃金が凍結された。

しかし、物価を動かしている戦争は続いているのに、ただ威勢よく「一斉に止まれ」と号令を出したため、かえって、闇値、闇商人をはびこらせることになった。

興亜奉公日

毎月1日は、戦場の苦勞を偲ぶ「興亜奉公日」とすることが決まり、昭和14年9月1日から実施された。パー、ピヤホールは「謹んで休業」の貼り紙を出し、禁酒禁煙、一汁一菜、長髪、パーマネット禁止、中元・歳暮の廃止など、日常生活の戦時態勢化だった。

原田 熊雄(はらだ・くまお)

明治21(1888)～昭和21(1946)東京生まれ。日銀勤務、加藤(朗)首相秘書官を経て大正15年元老西園寺の秘書。重臣・高官との連絡や政界情報の収集に当たった。著に「西園寺公と政局」

阿部の述懐

「今日のようにまるで二つの国 — 陸軍という国と、それ以外の国があるようなことでは、到底政治がうまくゆくわけがない。自分も陸軍出身であって、前々から何とかこの陸軍部内の異常な状態を少しでも直したいと思ってはいたけれども、これほど深いものとは感じておらなかった。まことに自分の認識不足を恥じざるを得ない」

●後継首相は、意外にも米内光政(謙輔)

▽陸軍は 早くから 近衛担ぎ出しに 動いていた

▽武藤章(騷鼠)は 1月9日 近衛を訪ね

「挙国一致内閣」の組織を 要請

「これは陸軍の総意である」と 伝えた

▽畑(隼)も 最後の一押しを 試みたが

近衛は「不況克服の自信がない」と 断った

米内は、昭和天皇のご意向だった

米内はむしろ私の方から推薦した、米内のことを日独同盟反対の伏見宮に相談した処、差支えないといふ意向だったので、日独同盟論を抑える意味で米内を総理大臣に任命した。そして米内に大命を授けると同時に畑を呼んで、米内を援ける事を要望した。処がこの要望したことが果(計)らずも禍をなして陸軍の反対を招いた。
(「昭和天皇御自叙」から)

▽湯浅倉平(内矩)は 天皇の意向を受け

海軍の先輩 岡田啓介(謙輔)に 米内説得を依頼

▽岡田は 辞退する米内に「お上の思召しだ」

▽米内が 拝辞する積もりで参内

顔を上げた途端「朕、卿二組閣ヲ命ス」

米内の耳には「米内、頼むよ」

「万難を排して台閣に立つ覚悟を決めた」

どれほど米内を信頼していたか

「第一に、憲法の運用を誤らないように。第二に、大臣の人選は慎重にせよ」国際協調は、言わなくても分かっていると思われていた。

武藤 章(わとう・あきら)

明治25(1892)～昭和23(1948)熊本県生まれ。陸軍中将。昭和11年陸軍省軍務局高級課員の時、二・二六事件直後の広田内閣の組閣人事に干渉。12年3月参謀本部作戦課長となり支那事変拡大を主張し、石原(作櫛)と対立。中支方面軍参謀副長を経て14年10月軍務局長に就任、三国同盟、大政翼賛会を推進した。近衛第2師団長の後、19年第14方面軍(嶋)参謀長。A級戦犯として刑死した

…… 街には「陸軍後継説」 ……

阿部内閣が14日に総辞職すると、朝日新聞は「後継に畑俊六大将を奏請」の号外を出した。国技館で相撲見物をしていた武藤が、「相撲どころでない」と陸軍省へ戻ったところへ、蓮沼蕃(龍武)から畑に足止め。これはいよいよ本物だと、大慌てで書記官長の人選、組閣本部探しにかかったが、夜7時半、組閣の大命が下ったのは米内だった。武藤は「海軍の陰謀にしてやられた」と悔しがった。

蓮沼 蕃(はすま・しげる)

明治16(1883)～昭和29(1954)石川県生まれ。陸軍大将。大正14年侍従武官。第9師団長など歴任し昭和14年侍従武官長

伏見宮 博恭王(ふしみのみや・ひろやす)

明治8(1875)～昭和21(1946)海軍大将・元帥。横須賀鎮守府長官、海大校長などを歴任。昭和8年～16年軍令部総長

湯浅 倉平(ゆあさ・くらへい)

明治7(1874)～昭和15(1940)山口県生まれ。県知事、警視総監、内務次官、会計検査院長を経て昭和8年宮内大臣。11年二・二六事件後に内大臣となり、天皇側近にあって軍部の無理押しに抵抗した

▽畑の足止めは 陸軍の協力を 確約させるため
▽畑が 半ば 大命を受ける心積もりで 参内すると
「内閣が代わって米内内閣が出来るが、一体陸軍
の様子はどうか」「無論纏って内閣を援けて参
る積もりでございます」「それならば宜しいが
とにかく協力してやれ」

●米内は、盛岡南部藩で剣道師範の家に生まれた

▽盛岡中学では 2年下に 及川古志郎

田子一民 郷古潔 金田一京助 野村胡堂

3年下に 板垣征四郎 4年下が 石川啄木

金田一の見た中学時代の米内

目をつぶると、当時の袴の縞柄までよみがえ
ってくる。少し白っぽいような縞柄だった。好
い盛岡人の「土族のわこさん」の典型的な、白
皙長軀、颯爽とした中に、温厚、玉のような、落
ち着いた物静かさと、真面目な篤実味とが、懐
かしさを以て下級の私共に振り返られる先輩
の一人だった。

▽海兵卒業成績は68番 真ん中より ちょっと下
寡黙で 議論を好まず「グズ政」があだ名

▽連合艦隊長官(聊11年12月) 足かけ3ヵ月で海相
「一軍属になるのは全く有難くない」

▽「能弁」を持ち合わせていない 最初は「金魚大臣」

▽普段は 細かなことは部下任せ 大綱だけを掴む
肝心な問題には 丹念に検討を加え 細心だった

高木惣吉の見た大臣時代の米内

ドイツのオーストリア併合で、調査課が情勢
判断をまとめたところ、大臣の傍線六カ所、所
見十六カ所。ドイツ枢軸との接近を不利とし、
独裁国の強さに幻惑されることを戒める傍注
が多いのに、びっくりした。

●米内の海相在任2年半、次官は一貫して山本五十六

▽軍務局長に井上成美 このトリオが 統制をとり
海軍の政治的進出を抑え 三国同盟の防波堤に

米内は、独伊をどう見たのか

ヒットラーやムッソリーニは一代身上だ。彼

岡田 啓介(おが・けいすけ)

明治1(1868)～昭和27(1952) 福井県生
まれ。海軍大将。連合艦隊長官を経て昭
和2年海相。7年海相再任。9年首相就任。
二・二六事件で襲撃され、危うく難を逃
れる。重臣として終戦和平に尽力

及川 古志郎(おがわ・こしろう)

明治16(1883)～昭和33(1958) 岩手県出
身。海軍大将。昭和15年海相となり18年
海上護衛総長官。19年軍令部総長

田子 一民(たご・いちみん)

明治14(1881)～昭和38(1963) 岩手県生
まれ。三重県知事で退官し昭和3年衆院
議員。政友会に属し16年衆院議長。27年
衆院議員返り咲き、第4次吉田内閣農相

郷古 潔(ごうこ・きよし)

明治15(1882)～昭和36(1961) 岩手県生
まれ。昭和16年三菱重工業社長。17年会
長。戦後日本航空協会、兵器工業会会長

金田一 京助(きんだいち・きょうすけ)

明治15(1882)～昭和46(1971) 岩手県生
まれ。東大、国学院、早大で教授を務め、
アイヌ民族の言語・文学・民俗に関する
学問的基盤を作る。昭和29年文化勲章

野村 胡堂(のむら・こうどう)

明治15(1882)～昭和38(1963) 岩手県生
まれ。本名長一。報知新聞社会部長を務
め、昭和6年～32年に「銭形平次捕物控」
383編を執筆、33年菊池寛賞。筆名「あら
えびす」の音楽評論でも知られた

石川 啄木(いしかわ・たくぼく)

明治19(1886)～明治45(1912) 岩手県生
まれ。中学を中退し代用教員の後、職を
求め北海道各地を流浪。詩集「悲しき玩
具」「一握の砂」は苦しい生活の中から

らはその身上を棒に振ったところで、もともとだが、日本には三千年の歴史がある。その日本の天皇と一代身上者とを、同じ舞台に出して手を握らせようなんて、とんでもない話だ。

小泉信三の語る米内

彼は決して語り過ぎない人であった。国に事がなければ、あるいは、全く世人の目につかないままで終わる人であったかも知れない。

- ▽米内の真価は 高い見識 それを貫く信念
板垣(淵)が 三国同盟を 強硬に主張した時
「日本の海軍は、米英を向こうに回して
戦争をするように建造されておりません」
勝てる見込みのないことを 言い切っている
- ▽日清 日露戦争と 一度も 敗戦を経験せず
自国の国力 戦力を過信し
傲慢になっている風潮を 心配していた

米内は、陸軍の精神論について

陸軍が盛んに精神論をやる。そりゃ精神のないところに、進歩も勝利もない。しかし海軍は国民精神総動員とか、陸軍のような大和魂云々の一本槍で海の戦はやれない。工業生産の量、機械の質、技術の善し悪しが、そのまま正直に戦力に反映する。

●阿部内閣海相には、吉田善吾(山本の隣姓)

…… なぜ、山本を海相にしなかったのか ……………
武井大助(淵)が尋ねたところ、米内は「殺される恐れがあるんでねえ」 山本は、吉田の下で「次官として留任してもいい」と言っていたが、強いて洋上へ出したのは米内だった。
7月の反英運動の時、海軍省には右翼が「三国同盟を結べ」と押し掛けたし、陸軍部隊が襲撃して来るとのデマも飛び、陸戦隊1個小隊が籠城準備をしたほど。7月15日に芝浦でダイナマイトを持っていた沖仲仕を逮捕したところ、米内、山本、湯浅らの暗殺計画が発覚した。

高木 惣吉(たかぎ・そうきち)

明治26(1893)～昭和54(1979)熊本県生まれ。海軍少将。昭和12年海軍省調査課長。19年教育局長となり9月軍令部出仕の肩書で米内(淵)を助け終戦工作従事

ヒットラー(Adolf Hitler)

1889～1945 オーストリア生まれ。第1次大戦後ナチ党党首となり、昭和8年ドイツ首相。一党独裁体制を確立、軍備を拡張、対外侵略を強行し14年第2次大戦を起こす。ベルリン陥落直前に自殺

ムッソリーニ(benito Mussolini)

1893～1945 大正10年、イタリアで全国ファシスト党を結成、11年政権を掌握。独裁体制を確立し昭和11年エチオピア併合。15年連合国に宣戦。18年連合軍のシチリア上陸で失脚、監禁。独軍に救出されたがパルチザンに処刑される

井上 成美(いのうえ・げいじ)

明治22(1889)～昭和50(1975)宮城県生まれ。海軍大将。昭和12年軍務局長。第4艦隊長官を経て17年海兵校長となり英語教育を貫く。19年次官に就任、高木に指示して終戦和平に尽力した

小泉 信三(こいずみ・しんぞう)

明治21(1888)～昭和41(1966)東京生まれ。大正5年慶応義塾教授となり、昭和8年から22年まで塾長。24年東宮参与、皇太子(現皇)の教育に当たる。34年文化勲章。戦死した長男を悼む「海軍主計大尉小泉信吉」は出色の文として知られる

吉田 善吾(よしか・ぜんご)

明治18(1885)～昭和41(1966)佐賀県生まれ。海軍大将。連合艦隊長官を経て昭和14年阿部内閣海相。支那方面艦隊長官、横須賀鎮守府長官など歴任

▽井上は「海軍が三国同盟に反対だったと言うが、海軍の中でも本気に反対したのは、米内、山本と私の三人だけだった」

▽吉田の考えは 米内 山本と 同じでも
山本のような ファイターでなかったし
米内ほど 恵まれた手足を 持っていなかった

▽新次官の 住山徳太郎中将は 侍従武官を務め
挙措温厚「女子学習院長」と あだ名された紳士

▽山本は「誰が次官になろうと、海軍の方針は変わらないんだということを見せてやるんだ」

▽結局は 強硬論に押され 枢軸派中堅が主流に

●陸軍の倒閣運動は、米内内閣成立の日(昭和15年1月16日)から始まった

▽「お声がかかり内閣」「天皇の袖に隠れた内閣だ」

▽畑(圃)に対しても

板垣が 内閣で 陸軍の意向を 強く主張し

「我らの大臣」だったのに 畑は

ドイツ接近論を抑え「陛下の大臣だ」

▽15年は 皇紀2600年 秋には 盛大な祝賀式典

「海軍の総理のもとでやらせるな」が 合言葉に

米英協調姿勢に、参議3人が辞任

外相には有田(祐輔)が起用され、米英協調姿勢を見せたので、米英も歓迎の意向を示した。しかも蔵相桜内幸雄など政党人4人が入閣、ロンドン・タイムズは「歴代内閣の官僚的色彩から逸脱したことが注目される」と論評した。

1月23日、末次、松井石根、松岡洋右の3参議が揃って辞任、米内内閣に公然と背を向けた。松岡は近衛を訪ね、「今どき八方美人的外交などあり得るはずがない」と、熱弁を振るった。「米国の主張に屈して支那事変以前に立ち還るのでない限り、日米関係の将来は、衝突の事態に立ち至ることは免れない。外交の方針は、この線に沿って立てられなければならぬと思う」

「枢軸寄りの外交にしろ」と、三国同盟復活の下地は依然として強かった。

武井 大助(たけい・だいすけ)

明治20(1887)～昭和47(1972)茨城県生まれ。海軍主計中将。東京高商を出て海軍に入り、昭和12年海軍省経理局長。19年安田銀行会長。戦後は昭和産業社長

筋を通すことに厳しい人だった
海軍には「政治に関わるのは大臣一人」という伝統がある。末次信正(大輔)が近衛内閣参議に就任するとすぐ予備役にしたが、自分も「首相が文官である以上、予備役が当然」と首相就任と同時に現役を退いた。

末次 信正(すえつぐ・のぶまさ)

明治13(1880)～昭和19(1944)山口県生まれ。海軍大将。昭和3年軍令部次長。ロンドン海軍軍縮条約に強硬に反対。8年連合艦隊長官になり、艦隊派総帥に。12年近衛内閣参議を経て内相に就任

桜内 幸雄(さくらうち・ゆきお)

明治13(1880)～昭和22(1947)島根県生まれ。大正9年以来衆院議員当選8回。商工相、農相を歴任し米内内閣蔵相

松井 石根(まつい・いね)

明治11(1878)～昭和23(1948)愛知県生まれ。陸軍大将。昭和12年現役に復帰し中支方面軍兼上海派遣軍司令官として南京攻略戦を指揮。東京裁判で「南京虐殺事件」の責任を問われ刑死

松岡 洋右(まつおか・ようすけ)

明治13(1880)～昭和21(1946)山口県生まれ。外交官、満鉄副総裁を経て衆院議員(岐阜)。昭和8年国際連盟代表となり、満州国否認に抗議し退場。15年第2次近衛内閣外相。三国同盟、日ソ中立条約締結。A級戦犯で起訴され、裁判中に病死

●米英協調外交の出端を挫いた「浅間丸事件」

▽1月21日午後1時頃 野島崎(千艱)沖65*₀で
 ホノルルから 横浜に向かっていた 浅間丸が
 英巡洋艦に 停船を命じられ
 ドイツ人船客51人のうち
 兵役年齢に該当する 21人が連行された
 ▽戦時国際法で 交戦国に認められた措置だが
 陸海軍の若手や 右翼は
 「日本の玄関先で帝国海軍の面目を潰した」
 ▽新聞も「此の敵性！此の挑戦！英国を撃て」
 「対英媚態をやめ、断乎交戦権を発動せよ！」
 激烈な見出しで 反英運動を煽った
 ▽有田・クレギー会談では 冷静に処理し
 英側が 兵役に服する可能性の少ない9人を
 日本側に引渡し「遺憾の意」を表し 落ち着いた
 ▽しかし 26日には 日米通商条約が廃棄され
 国民の間には 急速に 反米英感情が高まった

●日本には、米国の全面禁輸が最大の脅威に
 ▽財務長官は「日本商品に差別関税は課さない」
 石油 屑鉄の禁輸措置も 取らなかった
 ▽日本は 猛烈な 戦略物資の買い溜め
 物資動員計画の予定を早めて 繰り上げ輸入
 日銀の金準備も流用し 特別輸入
 14年度後半～15年度にかけ 4回 総額2億ドル
 ▽米陸海軍から「航空ガソリンの不足を招く」
 反対が出ても 米国政府は 日本の要求通り
 2,100万ドルの石油輸出を 許可した
 ▽膨大な買い溜めが 日米開戦の物的国力判定で
 悲観論を打ち消す 一つの要素になった

●斎藤隆夫(賊)は2月2日、衆議院で「反軍演説」
 ▽5尺足らず 10貫そこそこ「鼠の殿様」
 「支那事変の解決を急げ」と 1時間半
 ▽「事変勃発以来二年半、十万の英霊という犠牲を払
 っても解決しない。今後いつまで、戦いは続くの
 か。どう処理するつもりか、国民に示せ」
 「汪兆銘政権に望みを託しているようだが、それで
 本当に事変の処理は出来るのか」
 「聖戦の美名に隠れて、雲を掴むような文字を並べ
 立て、千載一遇の機会を逃している」

浅間丸

昭和4年、三菱長崎造船所で完成(船客定員839名、16,975ト)し、日本郵船サンフランシスコ航路に就航した。設備の優秀さで「太平洋の女王」と謳われた。開戦で日米交換船の後、輸送船として徴用され、19年11月1日バシ一海峡で米潜水艦に撃沈された。

英語追放の波

内務省は3月28日、「外国かぶれは国体に反する」と、芸能人16人を改名させた。歌手のディック・ミネは本名の三根耕一に、漫才のリーガル千太・万吉は柳家千太・万吉。俳優の藤原釜足は大化の改新の藤原鎌足を連想させ偉人の尊厳を傷つけると、藤原鶏太。陸軍は、士官・経理・幼年学校の入試から外国語を廃止、歴史は国史のみ、外国地理もアジアだけ。理由は「外国語重視偏重の弊風を打破改正せんとするの先駆たらん」
 煙草のゴールデン・バットは「金鶏」
 チェリーは「桜」。東京駅など、駅の英語表示板も外された。藤田たき(細野 巖)が「英米関係の最も険しい今日、英語不用論を唱えるのは大きな心得違い」と反対しても、国粹主義的な傾向はますます強くなっていった。

斎藤 隆夫(さいとう・たかお)

明治3(1870)～昭和24(1949) 兵庫県生まれ。弁護士を経て明治45年以来、衆議院議員当選13回。民政党総務、法制局長官を歴任。昭和11年二・二六事件後に粛清演説をして、軍の政治関与を攻撃。15年に反軍演説で軍部追隨の議会により罷名された。17年の翼賛選挙で、非推薦で立候補し最高点当選。戦後吉田、片山内閣で国務相兼行政調査部総裁

「歴代内閣は弱体であり、国民に向かって精神の緊張ばかりを説き、自身は姑息儉安一日を弥縫するところの政治をしている」

片山哲(かたやま・てい)の言葉

拍手鳴りも止まずという光景でした。私の生涯の中で聞いた議会演説としては、最高峰ですね。迫力もあるし、内容も良し、態度も堂々として、あの斎藤隆夫という議員が、もう壇上いっぱいに見えるくらいでした。

- 夜になって、陸軍は「聖戦冒険」とねじ込んできた
 - ▽痛いところを衝かれ 無能さを指摘されて憤慨
 - ▽政友会 時局同志会 社会大衆党までが 非難声明
 - ▽衆院議長は 職権で 演説の後半部分を削除
 - 斎藤も離党したが 3月7日 除名処分が決定
 - ▽斎藤は「奈落の底だよ」と 議会を去った
 - ▽斎藤除名問題が 政党の分裂を 表面化
 - 安部磯雄(あべ・いそお)は 除名に反対し離党
 - 片山哲ら15人が 政党から除名された
 - ▽25日 議員有志100人で「聖戦貫徹議員連盟」
近衛の 新体制運動の 大きな足場に

- 陸軍も、支那事変を持て余していた
 - ▽重慶政権分裂を狙い 汪兆銘を脱出させたが
 - ついてくる者は 少なく 新政府を樹立しても
 - 事変の解決にならないことは よく知っていた
 - ▽武藤(むとう)も 15年年頭の 局員挨拶で
 - 「今年はどうあっても、全面的に解決したい」
 - ▽拡大・積極論の筆頭だった 武藤は
 - 中支派遣軍参謀副長として 2年間 実戦を経験
 - 「蒋介石を相手にしなければダメだ」

…… 武藤が東京裁判に提出した供述書 ……………
中国五億民衆の間には、非常な勢いで民族意識が起こっており、支那事変は民族戦争の形態になっている。その中心は蒋介石であり、従来の行き掛りを捨てて蒋介石政権を相手とする解決策を、一日も早く樹立せねばならぬ

▽バカだった「国民政府相手ニセス」の近衛声明

汪 兆銘(わう・ちやうめい)

1883～1944 字は精鋭。日本に留学し法政大卒。孫文の下で革命運動に従事し、昭和7年蒋介石と合作政権を作り、行政院長。支那事変中、反共親日の和平運動を起こし、13年重慶脱出。15年南京に設立された国民政府主席。名古屋で病死

片山 哲(かたやま・てい)

明治20(1887)～昭和53(1978)和歌山県生まれ。弁護士を経て昭和5年衆院議員となり、社会大衆党書記長。15年斎藤除名に反対し、同党から除名される。戦後21年社会党委員長。22年首相。35年民主社会党を結党し、党最高顧問

削除された斎藤の反軍演説

国家競争ハ道理ノ戦争デハナイ、正邪曲直ノ競争デモナイ、徹頭徹尾力ノ競争デアル…此ノ現実ヲ無視シテ唯徒ニ聖戦ノ美名ニ隠レテ、国民的犠牲ヲ閉却シ、曰ク国際正義、曰ク道義外交、曰ク共存共栄、曰ク世界ノ平和。斯ノ如キ雲ヲ掴ムヤウナ文字ヲ列ベ立テテ、サウシテ千載一遇ノ機会ヲ逸シ、国家百年ノ大計ヲ誤ルヤウナコトガアリマシタナラバ現在ノ政治家ハ死シテモ其ノ罪ヲ減スコトハ出来ナイ。…事変以来歴代ノ政府ハ何ヲ為シタカ、二年有半ノ間ニ於テ三たび内閣ガ辞職スル、政局ノ安定スラ得ラレナイ。斯フ云フコトデドウシテ此ノ国難ニ当ルコトガ出来ルノデアルカ。畢竟スルニ政府ノ首脳部ニ責任感ガ欠ケテ居ル…国民的支持ヲ欠イテ居ルカラ、何事ニ付テモ自己ノ所信ヲ断行スル所ノ決心モナケレバ勇氣モナイ。姑息儉安一日ヲ弥縫スル所ノ政治ヲヤル。失敗スルノハ当り前デアリマス。

●陸軍は、「自主撤兵」の大転換方針を決定

▽3月30日(南京に汪兆銘の国民政府成立)

閑院宮(参謀長) 畑(陸相)が出席し 首脳会議

— 陸軍の「自主撤兵」方針 —

15年中に支那事変が解決されなかった場合、16年初頭から自発的に撤兵を開始、18年頃までに上海付近と華北に一部兵力を駐兵するに止める。具体的裏付けとして、事変経費も15年55億、16年45億、17年35億円と減少させる。

▽陸軍が 大きな期待をかけた「桐工作」(解工作)

▽日本側は 大物会談で 一挙に 停戦和平へ

代表に 板垣(支那派遣軍参謀長)を指名

▽7月23日 覚書交換「8月初旬、長沙で板垣・蒋介石・

汪兆銘の三者会談により停戦問題を協議する」

▽しかし 大物会談は 実現しなかった

支那派遣軍総司令部は 9月19日 中止を決定

●ドイツ軍電撃作戦が、「自主撤兵」を吹き飛ばした

欧州戦線は開戦後、奇妙な沈黙が続いた

英仏軍は、ドイツ軍と睨み合ったまま動こうとしなかった。宣戦布告をしても本音は「出来れば戦争したくない」であり、経済封鎖で屈伏させられないかと思っていた。米国からは「まやかしの戦争」といった声も出てきた。

チェンバレン(英首相)は15年4月4日、「ヒットラーは、バスに乗り遅れた」(大艦隊のチャンスを見逃した)と演説したが、その直後、電撃作戦が始まった。

▽ドイツ軍は 4月9日 デンマーク ノルウェーへ

デンマークは わずか3時間で 降伏した

▽5月10日には 戦車部隊 降下部隊を主力に

オランダ ベルギー ルクセンブルクに侵攻

戦闘は一方的で 三国の首都は 1日で陥落

▽難攻不落の要塞 マジノ線(フランス)も 突破され

英仏軍主力34万は

ダンケルク(フランス北の海岸)に 追い詰められた

▽「ダンケルクを救え！」イギリス市民は

ヨット モーターボート 釣り舟 遊覧船

船と名のつく400隻を 総動員 英仏軍を救出

— 「桐工作」はこうして始まった —

参謀本部は、支那情報課員を香港に派遣して秘かに重慶側と接触を試みていたが、14年12月末、香港大学教授の斡旋で「宋子良」と名乗る人物と会うことができた。本当に宋子良なら、上海を本拠に中国経済界を支配した浙江(せっちょう)財閥出身。兄は宋子文(徹隠)、姉が宋慶齡(敷村人)、宋美齡(蔣氏夫人)。陸軍は色めきたった。

参謀総長は、支那派遣軍に「桐工作」実行を指示、15年3月から香港で予備会談が始まった。重慶代表は宋子良、参謀次長、最高国防会議秘書。

重慶側は「満州国は黙認に近い形で処理したい」「華北駐兵は認められないが止むを得なければ撤兵を遅らせる形にしたい」一部意見の食違いはあったが、大筋でほぼ合意に達した。

…… 宋子良が本物かどうか ……

日本側に、常につきまとった不安だった。終戦直前、重慶の秘密組織藍衣社の幹部が上海で憲兵隊に逮捕されたが、それが「宋子良」だった。汪兆銘政権成立妨害の重慶側の謀略だったことは否めないが、工作に当たった今井武夫(支那派遣軍参謀長)は「交渉内容が重慶に伝わったのは間違いなく、謀略から政略へ移行する可能性をかなり含んだものだった。それが、ついに不発に終わったのは、謀略に伴う相互不信が増幅されたからだ」

今井 武夫(いまい・たけお)

明治33(1900)～昭和57(1982)長野県生まれ。陸軍少将。昭和10年北京駐在武官補佐官。参謀本部支那課長、支那派遣軍参謀、同参謀副長など歴任

▽英首相になった チャーチルは

6月4日 議会で「徹底抗戦」を訴えた

▽10日には イタリアが ドイツに加わり参戦

14日パリが陥落すると フランスはは22日降伏

●世界の目は、ドイツ軍の英本土上陸作戦に

▽「まだ前途はわからん」は 西園寺くらい

▽陸軍中央部の判断は「上陸作戦は間もなく行なわれ成功する。大英帝国の崩壊没落は決定的だ」

▽大島浩(艦長)も「ドイツと同盟を結べ」

ドイツの宣伝を 口移しするだけ

不利な情報は 全く 送ってこなかった

情報はあったのだ

西村敏雄大佐(スウェーデン駐武官)は「独軍の上陸用舟艇は英本土の上陸作戦の必要量だけ準備されていない」 辰巳栄一少将(イギリス駐武官)も「アメリカの支援でイギリスは危機を脱し、航空戦もイギリス優位に向かっている」

ところが若松只一少将(蘇聯駐武官)は、生粋のドイツ畑。「ドイツに不利な報告はよくない」と、西村へ注意するよう指示し、陸士同期の辰巳にも「あまり反独的な報告は、君のためにならない」と、忠告の手紙を書いたという。

▽海軍も 上層部は

「英国海軍健在である限り上陸作戦は難しい」

中堅幹部は ドイツ帰り ドイツ扇風

「ドイツ勝利」が 陸海軍の 圧倒的な空気に

●目の前に開けた、英仏蘭の東南アジアの植民地

▽主を失って 空白になれば

日本のほしい資源が山ほど 中でも蘭印の石油

▽南進論 三国同盟論が 陸海軍の大勢に

「千載一遇の好機だ。今こそドイツと提携して東南アジアに進出し、慢性的な物資不足を一気に解決すべきだ。併せて英米の援蒋ルートを断ち切り、蒋介石を孤立させることで事変解決を」

▽参謀本部は 6月に入ると

東南アジアの 用兵地誌作成に

参謀本部員を 商社員にして 続々送り込んだ

チャーチル(Winston Churchill)

1874~1965 第1次大戦時の海相。陸相、蔵相など歴任。昭和15年5月首相となり強力な指導力で第2次大戦勝利に貢献。26年再度首相。「第2次世界大戦」などの著作で、28年ノーベル文学賞受賞

チャーチルの演説

われわれはフランスで戦い、海や大洋で戦い、確信と力をもって空で戦うでしょう。われわれはいかなる犠牲を払っても、本土を守り抜くでしょう。われわれは海岸で戦い、野原や市街で戦い、山中で戦うでしょう。われわれは決して降伏しないでしょう。…海をへだてたわが帝国は、イギリス海軍を武器とし、それに守られて戦い続け、いつか必ず、新世界がその全力をあげて、旧世界の救援と解放に立ち上がる日を迎えるであります。 「第2次世界大戦」から

大島 浩(おしま・ひろし)

明治19(1886)~昭和50(1975) 岐阜県生まれ。陸軍中将。昭和9年駐独武官。13年大使。独ソ不可侵条約で辞任したが、15年再び大使となり、三国同盟を推進。A級戦犯で終身禁固刑。30年出所

マッカーサーの言葉

司令官にとって最も大切なことは、5%の必要な情報を、95%のどうでもいい情報から見分けることだ。

マッカーサー(Douglas MacArthur)

1880~1964 米国元帥。開戦時の極東軍司令官で西南太平洋連合軍総司令官となり、日本降伏後、連合軍最高司令官として日本占領に当たった。朝鮮戦争で原爆使用を主張、解任される

▽仏印では 援蔣ルートが 自発的に閉鎖され
監視要員40人を派遣 北部仏印進駐の足場

●アメリカの心配は、日本の蘭印占領

▽日本の南進を 牽制するため

5月7日 ハワイで演習中の 太平洋艦隊を
西海岸に戻さず そのまま 真珠湾に常駐させた

▽日本に 南進の口実を 与えない措置も

オランダが降伏すると 英国に

「蘭印に進出しない」と 声明させた

オランダにも

蘭印の石油の 対日輸出を 確約させた

▽米国では 7月2日「国防強化促進法」が成立

武器 軍需品 戦争資材輸出を 許可制に

しかし 石油 屑鉄は 許可品目から外された

●日本国内は、「バスに乗り遅れるな」の大合唱

..... 朝日新聞(6月23日)
トップ記事で「内政、外交共今や大転換の時
期が到来したことは国民的認識の期せざる一
致である」見出しも「対独伊関係緊密強化 帝
国外交・一大転換へ 英米仏には一段と攻勢」

▽「新体制運動」が「近衛再登場」熱望論に拍車

近衛の「新体制運動」

近衛にとっては旧来の政党は魅力がなく、右
翼、左翼を問わず、現状打破を標榜する革新勢
力を取り込んで、新しい政治組織を作り上げる
ことだった。

ところが、「ドイツ勝利の根源はナチス」と信
じている陸軍などが、近衛再登場に熱烈な歓
迎を示したため、政権を握った場合は、各政党
に解散を要求、ナチスのように一党組織にし、
国民的な政党の力によって軍部や官僚を抑制
していこうと、考えるようになった。

▽「聖戦貫徹議員連盟」は 6月11日 政党解散を勧告

民政党を除く各会派は 相次いで 同意表明

▽近衛が 6月24日 枢密院議長を辞職

出馬声明すると 陸軍は 一気に倒閣へ

西村 敏雄(にしむら・としお)

明治31(1898)～昭和31(1956)山口県生
まれ。陸軍少将。中国、ソ連駐在、参謀本
部勤務を経て昭和13年スウェーデン公
使館付武官。19年第14方面軍参謀副長

若松 只一(わかまつ・ただかず)

明治26(1893)～昭和34(1959)愛知県生
まれ。陸軍中将。昭和5年から3年間ドイ
ツ駐在。12年オーストリア駐在武官。15
年参謀本部情報部長。第46師団長、南方
軍参謀副長など歴任

米国は欧州情勢急変に

英国の危機は米国の危機だった。ル
大統領は陸軍省に対策を諮問したが
「太平洋では日本に干渉せず、近く敗
北が予想される英国その他への物資
供給も中止し、米本土と周辺の防衛
に専念すべきだ」

参戦には大義名分が必要だが、ドイ
ツも日本も直接米国を攻撃する気配
を見せていない。参戦に必要な400万
の兵力も準備できていないし、世論、
議会も「100%自衛」以外の参戦を認め
る空気はない。無理な参戦をすれば、
秋の大統領選に落選の恐れがある。

米国政府は、公式には「中立」を叫び
大統領権限の範囲内で軍備を増強、
英国援助を強化してドイツを牽制さ
せ、日本に対しては外交交渉などで
足止めをかける、方針を決定した。

..... 近衛の出馬声明(6月24日)
.....

「内外未曾有の変局に対処するため
強力なる挙国政治体制を確立するの
必要は何人も認めるところである。
自分は今回枢密院議長を拝辞し斯く
の如き新体制の確立の為に微力を捧
げたいと思ふ」

●米内が首相である限り、三国同盟も南進も不可能

▽陸軍首脳会議は 7月3日

「世界情勢ノ推移ニ伴フ時局処理要綱」を決定
「蘭領印度ニ対シテハ政略的施策ヲ以テ軍要
資源ノ獲得ニ努ムルモ、情況ニヨリ武力ヲ行
使シソノ目的ヲ達スルコトアリ」

▽参謀本部は 翌日 海軍に対する説明で

「南方に武力を行使する場合には、独伊軍事同盟
に入ることになる」「近衛内閣になった場合、
外相には松岡洋右、陸相には東条英機か山下奉
文がよかろう」全ては 陸軍の目論み通りに

▽閑院宮参謀総長は 4日 畑陸相に要望書

「挙国強力な内閣の組織には、陸軍大臣の善処を
切望す」畑が 単独辞表を出し 内閣を倒せ

▽11日には 阿南惟幾(煇)が 内閣書記官長を訪ね
辞職勧告を 拒否されると

「それなら陸軍大臣が辞職するより道はない」

▽畑は 天皇との板挟み 憔悴し切っていたが

16日 辞表を提出 米内内閣は 同夜総辞職

▽辞職声明で 陸軍の責任を 明確に 指摘したが
新聞は「米内・有田外交の清算」歓迎一色

●第2次近衛内閣は、7月22日成立

▽陸軍は 9月5日 北部仏印進駐命令

27日 日独伊三国同盟に調印

アメリカに敵対 枢軸側に立つ姿勢を明確に

▽米国は まず 屑鉄を禁輸

南部仏印進駐で 16年8月 石油を全面禁輸

— 米内は、緒方竹虎に —

我々の反対側は、ちょうどナイアガラ瀑布の
一、二町上流で、しかも流れに逆らって船を漕
いでいるようなものだった」

..... 「一六会」
米内内閣は昭和15年1月16日成立し、7月16日
総辞職した。秘書官は、米内を中心に「一六会」
を作った。米内の死後も年2回の会合は続けら
れた。昭和天皇も覚えておられて「きょうは一
六会の日だね」

東条 英機(とうじょう・ひでき)

明治17(1884)～昭和23(1948)東京生まれ。陸軍大将。昭和13年陸軍次官となり
15年第2次近衛内閣陸相。16年10月首相
に就任し対米英開戦。憲兵政治、翼賛選
挙で独裁体制を固めた。戦局悪化で19
年参謀総長を兼務したが、7月サイパン
陥落で総辞職。戦後、拳銃自殺を凶った
が未遂。A級戦犯として絞首刑

山下 奉文(やました・ともゆき)

明治18(1885)～昭和21(1946)高知県生
まれ。陸軍大将。昭和16年第25軍司令官
となり、シンがポール攻略。19年第14方
面軍司令官。比島戦を指揮し、戦後刑死

阿南 惟幾(あなみ・これか)

明治20(1887)～昭和20(1945)東京生ま
れ。陸軍大将。昭和14年陸軍次官。20年4
月鈴木内閣陸相となり、終戦の夜自決

— 米内内閣の総辞職声明 —

「現内閣は組閣以来閣僚一致内外重
要国務の遂行につき全力をあげて努
力し来りたるも、陸軍大臣は近時の
政情に鑑み辞表を提出したるに依り
米内内閣総理大臣は辞意を決し各閣
僚の辞表を取纏め本日閣下に捧呈す
る事となれり」

緒方 竹虎(おがた・たけとら)

明治21(1888)～昭和31(1956)山形県生
まれ。朝日新聞主筆、副社長を経て昭和
19年小磯内閣国務相。戦後、吉田内閣官
房長官。29年自由党総裁となり、保守合
同後の自民党総裁と目されたが急死